

ハリセンボン再び

ハリセンボンと言っても、お笑い芸人ではありません。フグの仲間のハリセンボン科に属する体表にたくさんの棘がある魚です(写真1)。フグ提灯になるとなかなか愛嬌のある姿形ですが、笑い事ではありません。平成14年1月に伊豆東岸の大型定置網に大量に入網し、伊豆分場だより288号に記録されていますが、その時以来の大量入網となり、定置網漁業者の方々を大いに悩ませました。



写真1 膨らんだハリセンボン

今回は、まず12月3日に伊東市場に調査に行った際に、川奈漁場への入網が確認されました。全長は10cm程度の個体でした。大型クラゲが下火になったばかりで、まさに一難去ってまた一難の前兆でした。ただし、大型クラゲのよう

に連日入網というほど

ではなく、入る漁場も川奈等に限られていたようです。

年も明けて1月となり、水温低下とともに死滅するのではと思われましたが、1月14日に伊東市場に調査に行ったところ、川奈漁場で数日前に数トンに入網があったとのことで、14日は谷津漁場にも入網しました。それ以後も断続的な入網があったようで、28日には川奈漁場に9.1トンというピークの入網がありました(写真2)。その全長を測定した結果が図1で、全長は8~10.5cmで10cmにピークが見られました。水揚されても、当然のことながら商品とはならず、沼津の残さい処理施設に送られるだけなので、どれだけ獲れたかの統計はありません。しかし、市場調査の際に見る限り、3月頃まで少ないながら入網しており、駿河湾内でも2月下旬でも生きた個体が潜水観察されています。前回は3月まで見られたようですので、同様の状況と言えるでしょう。過去の詳細は288号にまとめられておりますのでここでは詳しくふれませんが、伊豆沿岸では昭和26~28年にも定置網への大量入網が見られた記録があり、クラゲのように新しい出来事ではないようですが、定置網にとって厄介者には違いありません。



写真2 定置網で漁獲され選別されるハリセンボン

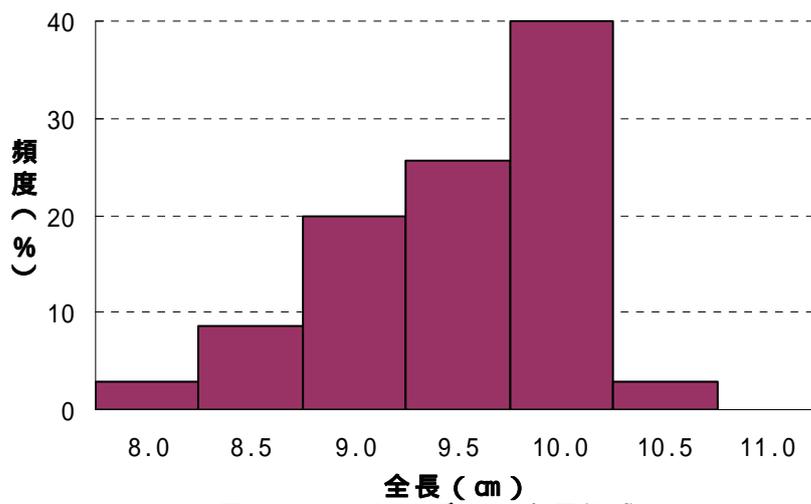


図1 ハリセンボンの全長組成

(御宿昭彦)